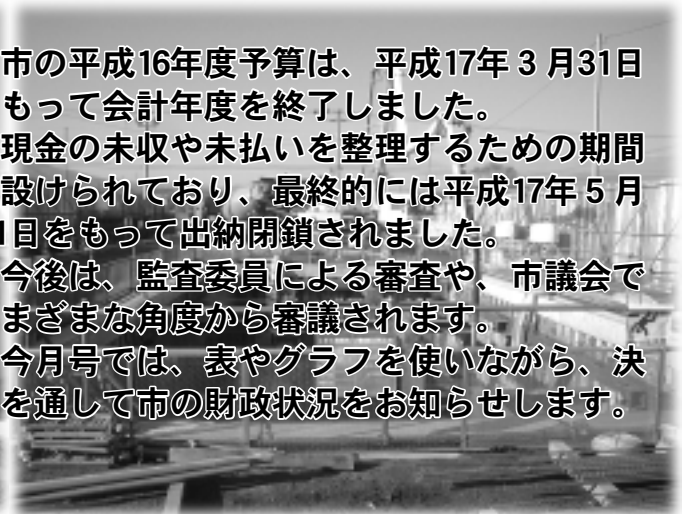
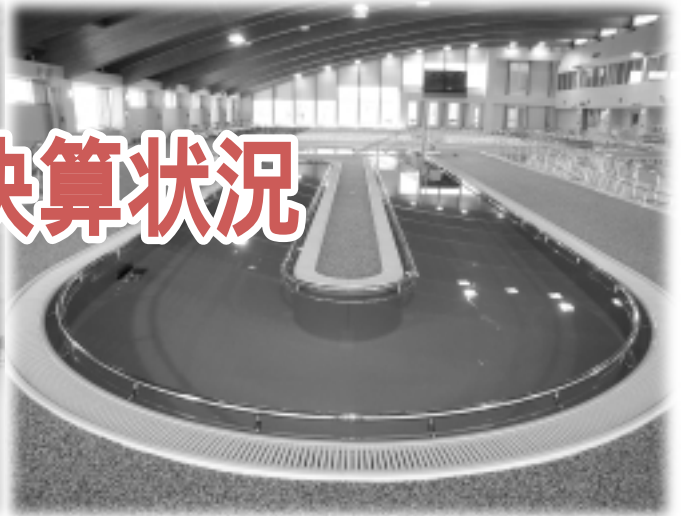


特集 財政公表

平成16年度の決算状況



市の平成16年度予算は、平成17年3月31日をもって会計年度を終了しました。現金の未収や未払いを整理するための期間が設けられており、最終的には平成17年5月31日をもって出納閉鎖されました。今後は、監査委員による審査や、市議会ですさまざまな角度から審議されます。今月号では、表やグラフを使いながら、決算を通して市の財政状況をお知らせします。

【表1】平成16年度決算額

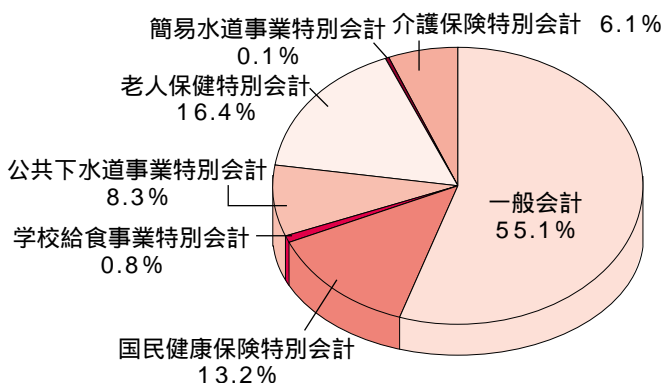
会計区分	歳入	歳出	差引額	
一般会計	223億1,302万円	217億4,827万円	5億6,476万円	
特別会計	国民健康保険	57億4,850万円	52億1,961万円	5億2,889万円
	学校給食事業	3億2,846万円	3億2,846万円	0円
	公共下水道事業	32億8,269万円	32億7,977万円	292万円
	老人保健	64億1,069万円	64億5,822万円	4,752万円
	簡易水道事業	4,389万円	4,389万円	0円
	介護保険	24億8,900万円	24億2,592万円	6,307万円

表示単位未満を四捨五入しているため、積み上げ額が一致しない箇所があります。

決算
市の財政は、一般会計のほか、6つの特別会計（国民健康保険、学校給食事業、公共下水道事業、老人保健、簡易水道事業、介護保険）と1つの企業会計（水道事業）で運営しています（3ページ財政用語解説参照）。
決算状況（「表1」「グラフ1」参照）を見ると、老人保健特別会計が4千752万円の赤字となっています。老人医療費は、自己負担分を除いて、各保険者（国民健康保険など）が拠出する支払基金と国・北海道・

平成16年度の決算と収支

【グラフ1】平成16年度各会計歳出全体に占める割合



市が割合を決めて負担することになっていますが、そのうち、支払基金からの交付金や国・北海道の負担金が概算（見込み）で交付されるため、医療費が予想以上に伸び、本来交付されるべき金額が増加し、不足が生じた結果、赤字となったものです。この不足額は、平成17年度に国と北海道から入ってくる予定です。学校給食事業特別会計と簡易水道事業特別会計は、歳入と歳出が同額です。一般会計と国民健康保険特別会計、公共下水道事業特別会計、介護保険特別会計は赤字となっています。この赤字額は、平成17年度予算の歳入として繰り越されることとなります。